第１９回　葛城市地域公共交通活性化協議会　会議録

開催日時　平成３０年１２月２１日（金）午後１時３０分

開催場所　葛城市役所新庄庁舎２０４会議室

欠席者　永田孝士委員、山下博史委員、吉川正利委員

議事

１　開会

（事務局）

〇只今より葛城市地域公共交通活性化協議会を開会いたします。開会にあたりまして、会長の阿古葛城市長よりご挨拶申し上げます。

２　会長挨拶

○ご多忙の中、委員の皆様方にはお集まりいただき、心より御礼を申し上げます。市民の関心が高い公共バスの運行について、調査・検証を皆様方と共に進めていただいているところです。次年度、１０月を目処に再編の予定で進んでおります。本日は、アンケート調査や実績の報告を踏まえて忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。

（事務局）

○ありがとうございました。本日の出席者は２０名の方が出席されており、定足数の過半数に達しております。

それでは、協議会規約第９条第１項の規定によりまして、会長が議長を務めるとなっておりますので、以降の進行を阿古会長にお願いしたいと思います。

阿古会長、よろしくお願いします。

３　報告案件

（議長）

〇それでは、ただ今より私が議長を務めさせていただきます。議事がスムースに運びますよう、皆さまのご協力をお願いします。

まず、最初に報告案件（１）について、事務局より説明を求めます。

（事務局）

○まず最初に、報告案件（１）葛城市コミュニティバスの利用状況につきまして、報告させていただきます。資料１の葛城市コミュニティバスの利用状況をご覧ください。

【資料１説明】

（議長）

〇ただ今、事務局より報告のありましたことについて、何かご質問等ございますか。

○他に無いようでしたら、次に、報告案件（２）について、事務局より説明を求めます。

（事務局）

〇それでは、報告案件（２）公共交通に関するアンケート調査につきまして、ご説明させていただきます。資料２の「葛城市の公共交通に関するアンケート調査　集計結果」をご覧ください。

【資料２説明】

（議長）

〇ただ今、事務局より報告のありましたことについて、何かご質問等ございますか。

〇他に無いようでしたら、次に、協議案件に移ります。

４　協議案件

（議長）

〇まず、協議案件（１）運行形態の見直しについて、事務局より説明を求めます。

（事務局）

〇それでは、協議案件（１）運行形態の見直しにつきまして、ご説明させていただきます。資料３の「葛城市コミュニティバスの再編案」と、本日配布させていただきました資料３－１の「平成３１年１０月新運用形態に向けたスケジュール（案）」をご覧ください。

【資料３、資料３－１説明】

（議長）

〇ただ今、事務局より説明のありましたことについて、何かご意見ございますか。

（近畿運輸局：本田代理）

○デマンドの「自由経路ドアツードア型」は、要望を聞きすぎて、うまくいかず、「安いタクシー」になってしまっている事例もあるので、最初は慎重にされたほうが良いのでは。

（奈良県県土マネジメント部：石神代理）

○資料で奈良県の公共交通バスの維持指標を使っているが、奈良県公共交通基本計画では、「利用者一人あたりの運行経費」ではなく「行政負担」としている。今回は、運行経費ということなので、支出額から収入額を差し引かないまま利用者数で割っているのか。

（事務局）

○行政支出額のデータがあったので、それを利用者数で割っています。

（奈良県タクシー協会：吾妻委員）

○デマンドタクシーというのは、実際にはセダン型の乗合バスなので、タクシーならではのメリットがなくなってしまう。

○田原本町では、タクシーの乗車補助を行い、一般のタクシーにいつでも乗れるようにしている。国の補助等がなく、どこも二の足を踏まれているが、利用者のメリットは大きいため、田原本町で評価されているようである。

（奈良県タクシー協会　葛城市部会：吉川委員）

○「高田～當麻～忍海」のバスが無くなったため、代わりにコミュニティバスを始めたので、運賃も以前と同額にすれば良いのではないか。補助を出してまで安くして乗っていただくのは、税金の無駄ではないか。弱者救済というのはわかるが、市民の要望を全て聞いていたらきりがない。

○タクシーの乗車補助チケットは、田原本町ではスムースにいっているようで、７０歳以上の方が町に請求するとチケットがもらえる。王寺、三宅、川西でも同じような取り組みをしているので、それらの例も参考にしては。

○香芝市の乗合タクシーでは、本来だと運賃が６８０円のところを２００円にし、約５００円を市が負担しているが、それを利用しない、車を持っている人達は、市に軽四等の税金を納めているので不公平ではないか。

（奈良県タクシー協会：吾妻）

○デマンドタクシーにしても乗車補助にしても、税金を使うのは止むを得ないことであり、地方公共団体として地域の住民の足を確保するためには、税金の使い方としては正しいと思うが、使い方に対して、どれだけの利便性があるかが問題である。

○乗車補助は、いつでもタクシーに乗ることができるので便利だが、地方公共団体としては、議会の承認や単独で取り組まなければならないという問題点があり、対象が大きければ予算的にも難しいので、場所や対象を限定して取り組むことが、利便性の向上につながるのではないか。業界としても、デマンドを行なえばパイの取り合いになってしまうので、一般乗用とデマンドの住み分けも考えていかなければならないが、乗車補助だとどのタクシーでも乗れるので、平均化されて良いのではないか。

（奈良県高田警察署：増田委員）

○アンケート結果で、「何歳まで自動車を運転したいか」という内容があるが、地域別の結果もあるのか。

（事務局）

○地域別の結果もあるが、本日の資料としては配布していません。

（奈良県高田警察署：増田委員）

○警察では、高齢者の事故が多いということで、運転免許証の自主返納をはじめとした様々な取り組みを行なっている。アンケート結果では、南部の地区などでは「乗りたいバスがない」「目的地まで行けない」という意見があり、自動車を「あと５年、１０年乗りたい」という方と、これらの地区がリンクしているのであれば、免許返納のメリットとして、デマンド交通やタクシー補助券といった検討が必要かと思うので、地区別の結果があればご提供いただきたい。

（事務局）

○地域別の集計を行い、提供させていただきます。

（議長）

○「どんな形にするのか」という議論ではなく、「現在のものをどのように改善するのか」という議論ですので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。どの方法が良いのかについて、頂いたご意見を参考に行政内部で作り上げてまいります。

○利用人数が少ないルートがあることを地元に説明することになりますが、どのルートを他の交通手段に変えるのでしょうか。

（事務局）

○南部のＥ・Ｆルートが特に乗車が少ないので、その地域を見直しの重点地域として検討していくことになると思います。

（議長）

○環状ルートの大きな変更点は便数ですので、説明のあった２ルート以外は、従前と同じやりかたを継承することになります。

○乗合タクシー方式のルートの中の人だけが、その方式に変わることになります。乗合タクシーの降車地は、ルートの範囲内のバス停迄となりますので、ルートから飛び出た場所、例えば高田市民病院までは行けないということになります。

（奈良交通：米田委員）

○他の自治体でもコミュニティバスの運営を受託しているが、経費削減として、土・日曜日は家族の送迎があるので運休にしたり、高田市では温泉施設が休みの日は運休にしている。経費削減としては、ルートを無くすという方法もあるが、土日や朝夕の便をやめる等、利用のない便をやめることで効率化はできると思われる。

（議長）

○他に無いようでしたら、運行形態の見直しにつきましては、皆様からいただきましたご意見を踏まえまして、事務局の方で進めていくようお願いします。

次に、協議案件（２）地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、事務局よりお願いします。

（事務局）

〇それでは、協議案件（２）地域公共交通確保維持改善事業の事業評価につきまして、ご説明させていただきます。資料４－１の「葛城市地域公共交通活性化協議会（案）」と資料４－２の「葛城市地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）」をご覧ください。

【資料４－１・４－２説明】

（議長）

〇ただ今、事務局より説明のありましたことについて、何かご意見ございますか。

〇他に無いようでしたら、地域公共交通確保維持改善事業の事業評価につきましては、事務局の方で、近畿運輸局への報告をお願いします。

〇最後に、協議案件（３）その他協議事項について、事務局よりお願いします。

（事務局）

〇今後のスケジュールについて、協議願います。

〇次回は、３月頃に法定協議会の開催を予定しています。どうぞよろしくお願いいたします。

（議長）

○全体を通じまして、何かご質問等はございませんでしょうか。

（奈良県県土マネジメント部：石神代理）

○アンケートを継続的に来年度等に実施する予定はあるのか。

（事務局）

○運行形態を見直す際には調査をするが、それ以外の予定はございません。

（奈良県県土マネジメント部：石神代理）

○今回、６０歳以上を対象にしているが、アンケート結果のまとめで「福祉施設利用のための交通手段と考えている方が多い」とある。対象を拡大して、少し内容を変えて若い方にアンケート調査を行うことは考えているのか。

（事務局）

○利用者については、今後も利用される方ということで、６５歳以上ではなく６０歳以上を対象にアンケートを行っています。乗っている方で、「通勤」での利用は、ほとんどない状況ですので、このような形でアンケートを実施した次第です。

５　閉会

（議長）

○以上をもって、第１９回葛城市地域公共交通活性化協議会を閉会します。

ありがとうございました。